

高等学校2年生 保健体育科学習指導案

1 単元名 「健康を支える環境づくり」 食品の安全性

2 単元について

健康の保持増進には、個人の力だけではなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度、活動などが深く関わっている。したがって、全ての人が健康に生きていくためには、環境を整備しそれを活用する上で、課題を見出し、その解決を目指した活動を通して、環境と健康、食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加などについて、理解を深めるとともに、これらの課題の解決に向けて思考・判断・表現することができるようとする必要がある。

このため、本内容は、人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあり、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があること、また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づいて行われていること、食品の安全性確保は、健康の保持増進にとって重要であり、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づいて行われていること、保健・医療制度や地域の保健・医療機関を適切に利用することが重要であり、その活用に関わる方法を学ぶとともに、医薬品は有効性や安全性が審査されており、正しく利用することが有効であること、我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策が行われていること、健康に関する環境づくりが重要であり、積極的な社会参加が人々の健康につながること、適切な情報の活用が有効であることなどを中心として構成している。

3 単元の目標

| | |
|---------------------|---|
| 知識・技能 | 健康を支える環境づくりについて、健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境、食品の保健、及び我が国の保健医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようとする。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | 健康を支える環境づくりについて、社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。 |
| 学びに向かう力・人間性 | 健康を支える環境づくりについて、社会生活における健康の保持増進に関わる課題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようとする。 |

4 生徒の実態と指導観

(1)生徒の実態

積極的な授業参加が見られる。授業内での切り替えが上手く、ペアワークからのスムーズな切り替えが予想される。食事に対する、知識・関心があまり高くないことが予想されるため、教科書の太字を中

心に、理解を深めさせたい。

(2)指導観

食品表示を見たり、食品の安全性を守るために規定や行われている活動を知ったりすることを通して、今私たちが安全な食生活を送っていることについて身近に考え、今後も安全な食生活を送るために自分に何ができるかを考えるとともに、実行できるようになってほしい。また、食物アレルギーについて、いつ自分に起こるかわからない身近なものであると理解するとともに、実際に目の前でアナフィラキシーショックを起こした人が現れた際に、落ち着いて、周りと連携して、応急処置ができるような、知識とロールプレイングによる実技力を身につけてほしい。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

| 健康安全への知識・技能 | 健康安全についての思考力・判断力・表現力等 | 健康・安全について、主体的に学習する態度 |
|--|---|--|
| <p>①人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがある。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとることがあること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。</p> <p>②食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。</p> <p>③生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。</p> <p>④我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。</p> <p>⑤自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーシ</p> | <p>①健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。</p> | <p>①健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p> |

| | | |
|---|--|--|
| ヨンの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 | | |
|---|--|--|

6 指導と評価の計画

| 時間 | 主な学習内容 | 知識 | 思・判・表 | 学び |
|----|---|----|-------|----|
| 1 | 大気汚染と健康 | | | |
| 2 | 水質汚濁、土壤汚染と健康 | | | |
| 3 | 環境と健康にかかる対策 | | | |
| 4 | ごみの処理と上下水道の整備 | | | |
| 5 | 食品の安全性 1. 食品の安全性と健康 2. 食品の安全性に関する今日的課題 (1)食中毒 (2)食品添加物・輸入食品 (3)食物アレルギー | | ① | |
| 6 | 食品衛生にかかる活動 | | | |
| 7 | 保健サービスとその活用 | | | |
| 8 | 医療サービスとその活用 | | | |
| 9 | 医薬品の制度とその活用 | | | |
| 10 | さまざまな保健活動や社会的対策 | | | |
| 11 | 健康に関する環境づくりと社会参加 | | | |

7 本時の展開

① 本時の目標

- 食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる
- 食品の安全性に関する今日的課題について説明できる

② 展開

| 段階 | 学習活動【 学習内容 】 | 指導上の留意点 ◇評価 |
|-----------|--|--|
| 導入 5分 | <p>1.挨拶</p> <p>2.本時の目標（めあて）を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><u>めあて</u></p> <p>食品の安全性と健康の関わりについて説明できるようになろう！</p> </div> | <p>○はじめにワークシートを配布する。</p> <p>○めあてを板書し、生徒にはワークシートに記入させる。</p> |
| | <p>発問1：食品が健康を害する問題にはどのようなものがあるか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>予想される生徒の反応：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒 ・食品添加物 ・輸入食品 ・食物アレルギー </div> | <p>○生徒が問題についてイメージしやすくするためにイラストを提示する。〔資料①〕</p> <p>○クイズ形式でイラストがどのような問題を表現しているのかを当てもらい、これから学ぶ内容を確認させる。</p> <p>○食中毒のイラストを最後に見せて展開に話を繋げる。</p> |
| 展開 35分 | <p>【食中毒について考える】</p> <p>3.食中毒の事例を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年雪印集団食中毒事件 | <p>○教科書 p 110 を開かせ、資料1「食品健康被害の事例」を見るよう指示する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【食中毒の発生状況について知る】</p> <p>4.食中毒の種類や、どのようにして起こるのかを知る。</p> <p>【身近な食中毒防止策について考える】</p> <p>5.事例を踏まえて、食中毒を防止するには何が大切なことを考えて、発表する。</p> <p>【食中毒予防について知る】</p> <p>6.食中毒予防の3原則について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 p110 を開かせ、資料2「食中毒の原因別発生状況」を見るように指示する。 ○食中毒には感染性のものと非感染性のものがあることを伝える。 ○学校で起きたのがちなノロウイルスも感染はするけれど食中毒であるということを伝え、食中毒についてもっと身近な問題であると考えてもらう。 ○ワークシートに食中毒予防策について自分の考えを記入させる。 ○机間指導を行う。 ○複数人を指名して、意見を全体に共有させる。 ○生徒から出た意見全てに適切なフィードバックを行い板書する。 ○板書された意見もワークシートに記入させる。 ○食中毒予防の3原則を順番通り大きく板書しながら生徒に復唱させる。 ○ワークシートの空欄を埋めさせる。〔資料②〕 |
|--|---|

発問3：食品添加物にどんな印象を持っているか。

予想される生徒の反応：

- ・体に悪い
- ・摂りすぎるとよくない

生徒の反応に対して：

そう考えた理由を聞く

教員の質問に対する生徒の反応：

- ・根拠はわからない
- ・今まで悪いと習ってきたから

生徒の反応に対して：

実際の添加物に関する事例や問題を提示し、食品添加物の危険性や、起きた悪影響について理解を深めさせる。

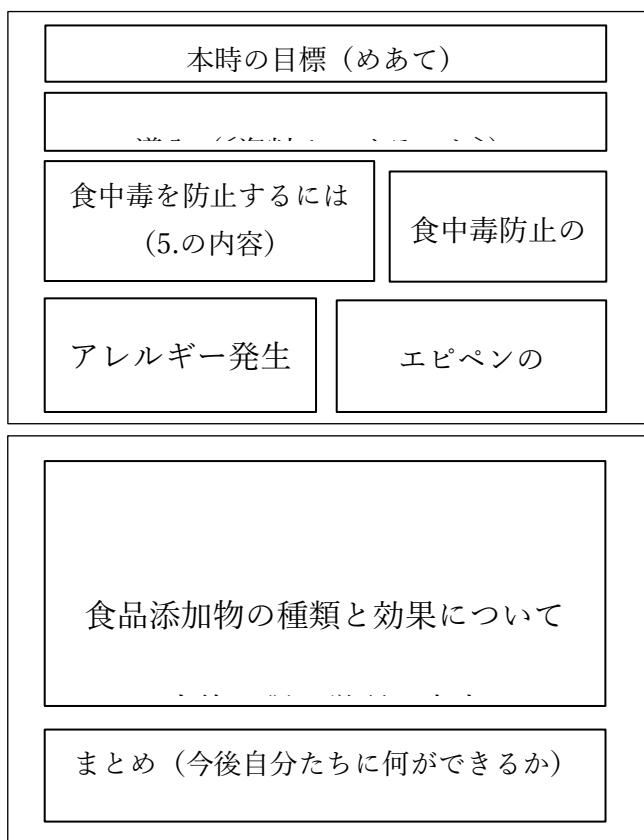
| | | |
|--|---|--|
| | <p>【食品添加物の危険性を知る】</p> <p>7.食品添加物の摂りすぎや体に悪影響を及ぼす食品添加物の危険性について知る。</p> <p>【食品添加物の必要性を考える】</p> <p>8.食品添加物が含まれる理由や、厳しい基準のもとで使用されていることについて知る。</p> <p>【食品添加物の種類や効果について知る】</p> <p>9.実際の食品表示を見て、どんな添加物が使われているか、またその添加物はどのような用途で使われているか調べる。</p> <p>10.グループで共有し、クラス全体に発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○「紅麹」の事例を用いて、食品添加物の危険性についての理解を深めさせる。 ○生徒がイメージしやすくするためにイラストを提示する。〔資料③〕 ○実際の食品パッケージ（お菓子・カップラーメン・菓子パン・和菓子）を用いて、添加物についてグループで調べさせる。（ICT 活用） ○生徒がイメージしやすくするために、実際に使われている添加物の具体例を示して説明する。 ○生徒の集中が分散しないようにするため、ワークの概要を説明し切ってから食品を配布する。（こんな食品にはこのような添加物が使用されているということを、視覚的にも感じてもらいたいため、実際に中身が入った食品を使用する。） ○複数人指名して、調べた内容を黒板に書いてもらい、クラス全体に発表させる。 ○発表が終わったら渡した食品を回収する。 <p>◆健康を支える環境づくりに関する情報から課題を見出し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表</p> |
|--|---|--|

| | |
|--|---|
| | <p>現している。</p> <p>〔思考・判断・表現〕</p> <p>〈A評価と判断するポイント〉</p> <p>様々な視点から、食品の安全性確保について考え、積極的に意見交換を行ない、私たちが安全な食生活を送ることについて、自分の考えをワークシートに記入し、枠を最後まで埋めている。</p> <p>発言機会が多く、積極的に意見を交換しようという姿勢が見られる。</p> <p>〈C評価と判断するポイント〉</p> <p>食品の安全性を確保するための決まりや活動について関心を持たず、他人事と考え、個人のワークやグループ活動に消極的である。</p> <p>〈努力を要する生徒への手立て〉</p> <p>画像やイラストを用いてイメージの共有を易しくする。</p> <p>安全な食生活を送るために自らできることがあるということを食品表示を用いて気づかせ、考えを深めさせる。</p> <p>グループ活動において巡回を行い、話し合いが円滑に進むような発問をする。</p> <p>【日本における輸入食品の実態を知る】</p> <p>11.輸入食品の危険性と安全性確保対策の実態について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食品表示で注目すべき点を伝え、今後自ら食品表示を見る習慣がつくように促す。 ○海外から食品を輸入する際は、日本の基準が適応されることを伝え、海外から日本に持ち込めないものがあることを理解させる。 <p>発問4：食品アレルギーとどう向き合っていくか。</p> |
|--|---|

| | |
|--|--|
| <p>【食品アレルギーの発生のしくみを知る】</p> <p>12.アレルギー発生の仕組みや種類、症状について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 p 111 の資料 3「食物アレルギーの発生のしくみとリスク要因」を見るように指示をする。 ○アレルギー発生の仕組みについてのキーワードを黒板に提示し、生徒にワークシートの空欄を埋めさせながら説明する。〔資料④〕 ○アレルギーは後天性であり、いつどこで誰に起きるかわからないということを伝える。 ○口唇アレルギーについて説明して、身近なアレルギーの危険について考えさせる。 ○アレルギーの程度には個人差があり、食品を口にせずとも症状が出てしまうこともあるということについて、具体例を用いて説明する。 |
| <p>【アレルギー症状（アナフィラキシーショック）発生時の対応方法を学ぶ】</p> <p>13.アレルギー患者に対して、自分にできることを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○「学校活動（修学旅行）の行動班にアレルギー患者のクラスメイトがいたら、自分にはどのような手助けや配慮ができるか」というテーマを用いて、アレルギー患者との関わり方についての理解を深めさせる。 ○クラス内のアレルギー患者に対して、プライバシーの配慮を行う。 |
| <p>【エピペンの正しい使用方法を知る】</p> <p>14.エピペンの使い方を学ぶ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○エピペンの使い方や正しい対応について、ワークシートの図と実演を用いて、黒板にワードを提示しながら説明する。〔資料⑤〕 ○エピペンは医療行為のため、本人・家族・医療関係者・（本人が打てない時に限り）教員しか実施することはないが、手を支えてあげたり、一緒に秒数を数えたり、正しい知識があることで緊急時に活かせることを伝える。 |

| | | |
|--|---|--|
| | | |
| <p>まとめ 5分</p> <p>15.「今後私たちが安全な食生活を送るために、今日から自分にできることは何か」について、考えたことをワークシートに記入する。</p> <p>16.本時の授業内容を振り返り、今後の生活に活かしていけるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○本時で取り上げた内容（「食中毒」「食品添加物/輸入食品」「食物アレルギー」）をもう一度提示し、授業を振り返りながら考え、記入できるようにサポートする。 ○記入させている時間は机間指導を行う。 ○数人を指名して発表してもらう。共感したものや新たに得た視点については、筆記具の色を変え、ワークシートに記入させる。（傾聴の姿勢・授業への積極的参加として評価の判断材料とする。） ○本時の授業の振り返りながら、具体的にどのような取り組みを日常的に行なっていくのか、決意を固めさせる。 | |

8 板書計画



9.資料

[資料①]

●食中毒・食品添加物・輸入食品・食品アレルギーを連想させるイラスト(画用紙)



[資料②]

●食中毒予防の3原則



[資料③]

●食品に添加物を使用する理由



(画用紙に描き直したものを使用)

[資料④]

◎アレルギー発生の仕組み

アレルギー発生の仕組み



[資料⑤]

◎エピペンの使い方

